

薬草教室だより 令和8年7月23日発行 第4号

東京都薬用植物園 〒187-0033 東京都小平市中島町21-1
TEL 042(341)0344

多肉植物について

多肉植物の特性と歴史そして魅力について

岡部ナーセリー 岡部 晃奈

<自己紹介>

立川市で植物の生産をしているオカベナーセリー(岡部園)の岡部晃奈(オカベアキナ)と申します。

生産している植物の種類は公園や住宅の植栽に用いられるヤブランやタマリユウなどのグランドカバー約300品種をビニールハウス9棟と露地の合計70aで生産・栽培しています。2014年に就農し、今年で12年目となります。

農業を仕事にするなんて思いもしませんでした。就農のきっかけは父親の急逝です。右も左も分からない状況で知らない世界にいきなり放り出されました。動き方や農業機械の操作、そして1年間の流れが分かるまでに8年くらいかかりました。まだまだ勉強の毎日ですが、今では農業が大好きです。

畑ではグランドカバー以外にも多種多様な植物の生産に挑戦しています。ユーカリやミモザなどの寒さに強いオージープランツ(オーストラリア原産の植物)の生産にも力を入れており、これらは切花やドライフラワーとして人気があります。季節によって旬が変わる切花を継続的に出せる様にすることも今後の目標です。旬の植物を使ったリース作りなどのワークショップも開催しています。興味がある方はぜひご参加下さい。

また、第6次産業にも興味があります。生産・加工・販売の3本柱を太くしていく事も今後の夢の一つで、直売所と小さなイベントが出来る多目的スペースの建設を計画中です。

(2026.05.25 現在)

1. 多肉植物って何？

多肉植物は、葉や茎または根に水分を蓄えることで乾燥に耐えられる種類の植物の総称です。砂漠や乾燥地帯など、水が少ない環境で生き抜くために進化した植物が多く、【多肉】という名前の通りぷっくりとした肉厚な部分に水を蓄えています。

身近な植物ですと、アロエやサボテンが多肉植物の代表例と言えるでしょう。

2. 多肉植物のブームメント

日本では2010年代前半から徐々に人気が高まり、2015～2020年頃に大きなブームになったと言われています。

2000 年以降

- 一部の園芸愛好家が育てるマニア向けの植物という位置づけ
- サボテンの知名度は高かった

2010～2014年頃

- ホームセンターや雑貨店で小さな多肉植物が増え始める
- グリーンを部屋に飾るライフスタイルが流行
- 手軽でかわいいインテリアのような植物として認知度があがる

2015～2020年頃(ブーム期)

- Instagram や SNS を通したインターネットでの人気が急拡大

- ・寄せ植えやおしゃれな鉢との組み合わせが流行
- ・特にエケベリアやハオルチアが人気
- ・多肉植物の専門店やイベントが全国で増加

2020年以降

- ・【コロナ渦】のおうち時間で園芸人口が増加
- ・アガベや塊根植物(コーデックス)など、よりコレクション性の高い植物にも人気が波及

より詳しく流行りの理由を知ってこよう

『時代の変化と多肉植物の特徴がぴったり一致した』

1, SNS 時代に最適だった

2010 年代に Instagram や YouTube などが普及しました。多肉植物はカラフルで形も美しいため写真映えます。

特にエケベリアのバラのような姿やハオルチアの透明感はSNS で人気を集めました。

2, 住環境の変化

大きな庭がなくても、窓際・デスク・棚で育てられる多肉植物は現代の生活に合っている。

3, 「手間が少ない」という魅力

多くの人が植物を枯らした経験があります。

多肉植物は、水やり回数が少ない・成長がゆっくり・管理しやすいというイメージもあり、初心者でも始めやすい植物として広まりました。

4, 癒しを求める時代

現代人は、ストレス・デジタル疲れ・都市生活にさらされており、植物を育てること自体が癒しになります。特に多肉植物は、毎日世話をしなくてもいいし少しずつ成長するため、忙しい人にも向いています。

5, コレクション性

ここが非常に重要です。

例えばエケベリア・ハオルチア・アガベには膨大な品種があります。

「次はこれが欲しい」

「もっと珍しい品種が欲しい」という気持ちが趣味として続けやすいのです。

6, コロナ渦が後押しした

2020 年以降、家で過ごす時間が増えました。

その結果、園芸・家庭菜園・観葉植物・多肉植物の需要が大きく伸びました。植物を育てることが自宅でできる趣味として注目されたのです。

7, 高級植物ブームへ発展

最初は数百円のエケベリアから始めた人が、次第にアガベ・コーデックス(塊根植物)・ユーフォルビアへ興味を広げていきました。

ここで「希少性」や「コレクション文化」が生まれ、一部の植物は高額で取引されるようになりました。

多肉植物が流行した理由は単に見た目が美しいからではありません。現代のライフスタイルに合っていたことが大きな要因です。

水やりの手間が少なく、小さなスペースでも育てられてインテリアとしても楽しめる。

さらに SNS によって、その魅力が多くの人に共有されました。

多肉植物は【育てる楽しみ】と【集める楽しみ】の両方を持っています、同じ品種でも色や形が異なり一つひとつに個性があります。

だからこそ多くの人が魅了されブームとして広がりました。

3. 多種多様な種類

2026年現在の人気ジャンル

- ・アガベ
- ・エケベリア
- ・ハオルチア
- ・コーデックス (塊根植物)
- ・ユーフォルビア

アガベまたはリュウゼツラン(竜舌蘭)・・・大型品種の多肉植物です。メキシコなどの乾燥地帯が原産国。日本では2010年頃、【厳ついトゲ】【希少品種】【コレクション性】が評価されはじめ、2022年～2024 年にはブームのピークで、数万円～数十万 円、中には 100 万円超の株も登場しました。

2025年以降もブームは落ち着いたものの、愛好家は多く人気種類は依然として高値取引されています。

実生(種から育てた株)が増え、以前よりも手に入りやすくなりました。

アガベは【100 年に 1 度花を咲かせる植物】として話題になりました。

数十年から 100 年かけて成長し、一度だけ開花して枯れる希少な植物で、別名「センチュリー・プラント」と呼ばれます。

実際には 30～50 年で咲くことも多いですがその珍しさから幻の花とされています。

アガベも品種が沢山あり、大きいものから小さいものまで様々です。寒さに強い品種を選べばお庭のアクセントとして目を惹きます。

アガベはアガベシロップ(アガベの茎から取れる 100%天然の甘味料)やテキーラの原料のとしても有名です。シロップやテキーラになるアガベの品種はブルーアガベといい、**芯 (ピニャ)** 部分だけを使用して搾取しています。

「ピニャ」はスペイン語で、パイナップルのこと。

見た目がパイナップルにそっくりです。

エケベリアは、多肉植物の中でも人気の高いグループ(属)です。葉がバラの花のように放射状に広がる「ロゼット形」が特徴です。

エケベリアの特徴

- ・バラのような美しい形

葉が中心から規則正しく広がり、まるで花が咲いているように見えます。

- ・色の変化が楽しめる 季節や日光条件によって緑、ピンク、赤、オレンジ、紫などに色づく品種があります。

種類が非常に多い

エケベリアは数百種以上の原種と交配種があり、現在も新しい品種が作られています。

なぜ人気なの？

エケベリアは多肉植物ブームの中心的存在

- ・見た目がかわいい ・小型で作りやすい
- ・品種が豊富 ・葉挿しで増やせる
- ・SNS(写真)映えする など

2015年頃からの多肉植物ブームはエケベリアを集める人が急増しました。

アガベとの違い

＜エケベリア＞	＜アガベ＞
可愛らしい印象	ワイルドな印象
葉にトゲがほぼない	トゲが目立つ
小型品種が多い	大型になる品種も多い
色の変化を楽しむ	造形やトゲを楽しむ
女性人気も高い	コレクター人気が高い

透明感のある葉や独特な模様が美しく、エケベリアと並ぶ人気の多肉植物です。

ハオルチアの特徴

・【窓】と呼ばれる透明な葉

ハオルチア最大の特徴は葉の先端にある透明な部分です。この透明な部分は【窓】と呼ばれ、葉の内部まで光を届ける役割があります。

特にハオルチア・オブツーサという品種で、まるでガラス細工や宝石の様な見た目から高い人気があります。
(写真)

2010 年頃から

- ・SNS で透明感が話題になる
- ・半日陰を好むので室内で育てやすい
- ・コレクション性が高い
- ・高級品種が注目される

これらの理由から人気が高まりました。

コーデックス(塊根植物)とは、根や幹の一部が大きく膨らみ、水分や養分を蓄える植物の総称です。
写真は植物界の芸術品とも呼ばれ、コレクターの間で人気が高い【パキポディウム・グラキリス】

コーデックスの特徴

乾燥地帯で生きているため、水を貯蔵するタンクの様な役割を持っています。そのため、丸い・太い・ゴツゴツしている、などの独特な見た目をしています。

一つひとつ形が違う

同じ種類でも、丸い・ひょうたん型・岩の様な形など、見た目が大きく異なります。そのため『世界に一つだけの樹形』として楽しめることが多いです。

近年は植物好きだけでなく、インテリア好き・デザイン好き・コレクターからの人気も高いです。

2018 年頃から徐々に人気が高まり、2020 年以降に大きなブームになりました。

- ・SNS 映えする
- ・個体差が大きく、唯一無二の植物
- ・数年、数十年かけて少しずつ太くなるので成長を長く楽しめる
- ・オブジェのような存在感がありインテリア性が高い
- ・希少価値が高いなどが理由です

丸いボールのような形から「野球ボール」とも呼ばれます。

ユーフォルビアは世界に約 2000 種類以上ある大きなク룹(属)で、サボテンのようなものから、木のようなもの、多肉植物のようなものまでさまざまな姿があります。

ユーフォルビアの特徴

・サボテンに似ているけどサボテンではない

見た目がサボテンそっくりな種類が多いですが、植物学上は別の仲間です。

見分けるポイントの一つは、サボテン特有の刺座(しざ)がないことです。

刺座とはサボテン特有のトゲの生え際にある綿毛やフェルト状のクッションのような器官のことです。

白い樹液に注意

ユーフォルビアを傷つけると白い乳液が出ることがあります。

この樹液は皮膚や目を刺激することがあるため、剪定や植替えの際は注意が必要です。

個性的な形が多い

球体、柱状、怪獣のような姿など非常にバリエーション豊かな見た目をしています。

そのためコレクター人気も高いです。

人気の理由

・他の植物にはない造形 ・コレクション性 ・育てる楽しみ など、植物好きの間では奇妙で摩訶不思議な見た目や独特の生態をもつとして注目を集めています。

- ◆ アガベは【彫刻のような植物】
- ◆ エケベリアか【花のような植物】
- ◆ ハオルチア【宝石のような植物】
- ◆ コーデックス【幹や根の造形をたのしむ植物】
- ◆ ユーフォルビア【不思議で個性的な植物】

4, 植物の原産地

* 南アフリカ

多肉植物の最大の宝庫です。

・ハオルチア、アロエ、一部のユーフォルビアなど、多くの人気種が自生しています。

* メキシコ

多肉植物ファンには非常に有名な地域です。

・アガベ、エケベリア、セダムの一部などが原産です。

* マダガスカル

珍しい塊根植物の宝庫

・パキポディウム、オペルクリカリアなどが自生しています雨が少ない環境で生き残るために進化した多肉植物は、

葉や茎、根に水を蓄えることで、何週間も雨が降らない・強い日差し・乾燥した土壌といった過酷な環境でも生きられます。

これらの地域では年間降水量が極端に少なく、昼夜の寒暖差も激しい環境が当たり前です。

そこで植物たちは、「**水をその場で使う**」のではなく【**体内に蓄える**】進化を遂げました。昼間は蒸散を防ぐために気孔(※)を閉じていて夕方から夜に気孔を開き呼吸を始めます。※ 気孔(きこう)とは、葉や茎の表面にある微小な穴のことで光合成に必要な二酸化炭素を取り込み、酸素や水蒸気を放出する重要な器官です。

意外なポイント

多肉植物は「砂漠の植物」というイメージがありますが、実際には高山地帯・海岸地域・草原などにも自生しています。

なぜ乾燥地帯以外にも自生しているのでしょうか。

それは、多肉植物が水を蓄えるのは「砂漠だから」ではなく
水を安定して確保しにくい環境に適応した結果だからです。
そのため、砂漠・高山・海岸・岩場・樹木の根元など
水分管理が難しい環境で進化した多肉植物が存在します。

多肉植物とは乾燥した地帯の植物ではなく
水をため込む能力を進化させた植物なのです。

5. 多肉植物の歴史

多肉植物は、数千万年～数億年にわたる進化の歴史があります。

約3000万～5000万年前 乾燥化への対応

地球の気候変動によって一部地域で乾燥化が進みました。

特に、現在のメキシコ、南アフリカ、マダガスカルでは乾燥地帯が拡大し、水を蓄えられる植物が有利になりました。

この時代に

アガベ類、アロエ類、ユーフォルビア類などの祖先が多肉化の方向へ進化したと考えられています。

数百年前 多肉植物の多様化

乾燥地帯や岩場などで種分化が進み、現在見られる多肉植物の原型が形成されました。

数15～18世紀 ヨーロッパへの紹介

大航海時代になると、ヨーロッパの探検家や植物科学者が世界中の植物を持ち帰るようになります。その中で、アロエ・アガベ・サボテンなどがヨーロッパに紹介されました。
貴族の温室で珍しい植物として栽培され始めます。

19世紀 植物収集ブーム

19世紀のヨーロッパでは、植物園の整備、温室技術の発達、植物学の発展により多肉植物の収集が盛んになりました。多くの種類が学術的に記載されたのもこの時代です。

日本では・・・

江戸時代に知られていた多肉植物はアロエやリュウゼツラン(アガベ)です。
アガベの仲間は17～18世紀頃には日本に伝わっていたと考えられています。

江戸時代の人々は、その巨大な葉や珍しい花に驚き「竜の舌のような植物」という意味で「リュウゼツラン(竜舌蘭)」と呼びました。

アロエも薬用植物として知られていました。火傷や傷の手当てなどに利用されることがあり、観賞用というより実用的に使う植物でした。

サボテンは江戸後期(1700年代後半)から明治時代にかけて広まります。当時は非常に珍しい輸入植物だったため、一部の好事家や大名の庭園で栽培される程度でした。

日本への普及

明治時代(1868～1912年)は、日本の多肉植物史においてかなり重要な時代です。

明治時代は【外国植物が大量に入ってきた時代】

明治維新後、日本は海外との交流を本格化しました。

その結果、サボテン・アロエ・リュウゼツラン・ユッカなど
それまで珍しかった乾燥地植物が次々と日本へ導入されました。

植物園の発展

明治時代には近代的な植物学が導入されました。

- ・東京大学大学院理学系研究科付属植物園（通称・小石川植物園）
- ・新宿御苑

などで海外植物の収集な研究が進められました。

この時、珍しい多肉植物も研究対象として栽培されるようになります。

一般家庭では

まだ現在のような流行りのようなものではありませんでした。

ただし、富裕層・植物愛好家・園芸家の間では珍しい海外植物として人気がありました。

大正・昭和へとつながる

明治時代に輸入された植物は

- ◎大正時代 → 園芸ブーム
 - ◎昭和 → サボテンブーム
 - ◎平成 → 多肉植物ブームこれらの土台となりました。
- 時代の流れをまとめると、、、

江戸時代＝珍しい海外植物

↓

明治時代＝本格的な導入と研究

↓

昭和＝サボテン・アロエの普及

↓

平成～令和＝エケベリア・ハオルチア・アガベなど多肉植物ブーム

という流れで発展してきたのです。

6. 育て方の基本

・日光

多肉植物は基本的に日光が好きです。

よく陽があたる場所に置く、室内なら窓際がおススメ。真夏の強い日差しは種類によって注意。

日光不足になると、茎が伸びて形が崩れたり葉の色が悪くなることがあります。

・水やり

初心者が最も失敗しやすいポイントです。土が完全に乾いてからたっぷりあたえるが、基本です。

×毎日少しずつ

◎乾いたらしっかり

多肉植物は乾燥には強いですが、過湿には弱いものが多いです。

・土

多肉植物は水はけが大切です。

多肉植物専用土・サボテン用土を使うと失敗が少なくなります。

・風通し

意外と重要なポイント

風通しが悪いと、蒸れる・カビが出る・病気になることがあります。室内でも時々換気すると良いです。

・季節ごとのポイント

春・秋

成長期。植替え、株分けに向いています。

夏

注意が必要な季節。

蒸れ・高温・葉焼けに気を付けます。昼間の水やりは避けましょう。

冬

種類によりますが、霜・凍結に注意します。

寒さに弱い種類は室内に取り込みます。

初心者が失敗する原因ベスト3

1位 水のやりすぎ

2位 日光不足

3位 風通し不足

多肉植物を枯らす原因の多くは、水不足ではなく水のやりすぎです。

「少し放っておくくらい」がちょうど良い植物です。

7. 高額な理由

多肉植物やアガベ、コーデックスが高額になる理由は単純に「人気だから」だけではありません。

・増やすのに時間がかかる

これが一番大きな理由です。

例えば、アガベ・ハオルチア・コーデックスは大きく育つまで何年もかかります。中には販売サイズになるまで3年、5年、10年かかるものもあります。

つまり、需要が急に増えても供給がすぐには増えません。

・希少な個体がある

同じ種類でも、トゲの形・葉の幅・色・模様の違いがありそれらの総合的な評価で価格が決まります。

植物でありながら、絵画や盆栽のように「一点もの」の価値が生まれるのです。

・輸入量が限られる

多くの人気植物はメキシコ・南アフリカ・マダガスカルなどから輸入されます。輸送コストや規制の影響で国内に入ってくる数が限られることがあります。

・SNS による人気集中

2010 年代後半以降、Instagram や動画サイトで人気品種が拡散されるようになりました。すると、「この品種が欲しい」という人が一気に増えます。

しかし植物はすぐに増えないため、価格があがります。

・コレクション市場がある

植物好きの中には、珍しい品種を集める、良い形の個体を探す、長く育てることを楽しむ人がいます。

・ブームで価格が過熱する事もある

2020～2023年頃は、アガベ・コーデックスの一部で価格が急騰しました。

植物の値段は、花の美しさだけで決まるのではなく

『希少性』 『育成に時間がかかる』 『コレクター需要』で決まります。

まとめ

本日は多肉植物についてお話してきました。

まず多肉植物とは、葉や茎、根に水をためることができる植物の総称です。乾燥した環境で生きるために進化し、世界中にさまざまな種類があります。

多肉植物が流行した理由

- ・育てやすい ・場所をとらない ・見た目が美しい
- ・SNS で魅力が広まった

現代のライフスタイルに合った植物だったことが多くの人に支持されたのが大きな要因です。

そして多肉植物には様々な種類があります。

例えば、

- ・エケベリア…花のような美しさ
- ・ハオルチア…透明感のある葉
- ・アガベ…力強いトゲと造形
- ・コーデックス…個性的な幹や根
- ・ユーフォルビア…不思議で独特な姿

それぞれに魅力があります。

最後に、多肉植物を育てる楽しさとは何でしょうか。

それは、

自分だけの植物を育てることができることです。

同じ種類でも形や色、成長の仕方が異なります。

毎日の大きな変化はありませんが、新しい芽が出たり、色が変わったりしながら少しずつ大きくなります。

そんな小さな成長を見つける喜びがあります。

皆さんも今日をきっかけに、ぜひお気に入りの1鉢を見つけてください。

多肉植物は、ただ飾るだけの植物ではなく

育てる楽しみ、観る楽しみ、そして長く付き合う楽しみを与えてくれる植物です。